

岡山県全域から障害のある方の作品を募集し、展示するアート展の企画

きらぼし★アート展実行委員会

活動の目的

岡山に暮らす障害のある方が文化芸術を享受し、その担い手、作家となり創作に取り組めるよう、創作と生活（進学・就業など）の両立のための支援が身近に受けられる社会を目指す。著作権など権利擁護、作家の生活や作品の保管、展示に関する相談窓口の設置、障害者アート支援組織・支援者ネットワークづくり、作品がいつでも見られる常設展示の場の整備を目指す。

活動の内容及び経過

2020年10月10日から31日まで「きらめく星たち」をテーマに、第4回きらぼし★アート展を倉敷市中央の加計美術館で開催した。絵画、造形、写真に298点の応募があり、一次審査を通過した入選作品81点（絵画50、造形16、写真15）を展示した。会期初日には出展作家が作品を紹介し創作活動への思いを語るアーティスト・トークが企画されたほか、一般財団法人たんぼぼの家（奈良市）の播磨靖夫理事長、児島塊太郎加計美術館館長が記念講演し、シンポジウムでは播磨氏と大原謙一郎大原美術館名誉館長、児島館長、伊東香織倉敷市長が意見を述べた。会期中、障害のあるなしに関わらずアートを楽しめる写真教室や缶バッジづくりのイベントも開催。会期終了後、同展で入賞経験がある制作者3人の絵をプリントしたTシャツと布製エコバッグを初めて製作し、協賛企業・団体に配布した。また、展示作すべてを収録した図録の制作に加え、コロナ禍で会場に足を運べなかったとの声に応え、展示作品をインターネット上で鑑賞できるHPを設けた。

活動の成果・効果

2017年からの継続開催により、岡山で暮らす障害者アート公募展として「きらぼし★アート展」が認知されてきており、応募作品のレベルが上がったとの評価もあった。福武教育文化振興財団からの助成を活用させていただき、今回初めてのチャレンジとなったグッズ製作プロジェクトは、障害のあるアート作家の創作活動が仕事につながることへの第一歩として大変意義のある取り組みとなった。これまでの実績により、同アート展のメイン主催団体である（一社）岡山障害者文化芸術協会は、同年秋に岡山市北区下石井の下石井公園へ障害者福祉施設を建設することが岡山市より許可された。施設には障害者アーティストらが働く就労継続支援A型事業所、一般企業への就職などを目指して訓練する就労移行支援事業所を設け、テラス席のあるカフェやアートギャラリーも整備し、地域に開かれた障害者の活躍の場を提供する。



今後の課題と問題点

これまで課題となっていた「障害のある方のアート作品の常設展示場の整備」や「障害のある作家の就労や進学など今後の生活と創作との両立のための仕組みづくり」を解決すべく、2021年度建設される施設には就労継続支援A型事業所、就労移行支援事業所が設けられる。施設運営を軌道に載せ、障害のある方やその支援者らが、安心して相談できる存在になることが重要となる。また、障害のある方が製作するアート作品や障害者就労について理解を広げる取り組みを企画・発信し、岡山県内はもとより、県外へも取り組みの輪を広げていくこと、賛同者を着実に増やしていくことが今後の大きな課題である。

- 代表者：阪本文雄 ●所在地：岡山市北区柳町
- TEL：086-230-2881 ●E-MAIL：bungeikyoku@kiraboshi-art.com
- URL：https://kiraboshi-art.com/
- 設立年：2016年 ●メンバー数：15名